

令和6年度第6回八戸市観光振興審議会

日 時：令和7年3月19日（水） 15時15分

場 所：種差海岸インフォメーションセンター
レクチャールーム

次 第

1. 開 会
2. 「将来ビジョン」について
3. 「八戸市観光振興プラン（素案）に対する各委員からの意見等」について
4. その他
各委員からの意見
5. 閉 会

令和6年度第6回八戸市観光振興審議会 出欠状況

対面出席：10名、欠席：2名

	職	氏名	備考	出欠
1	会長	あべ としかず 阿部 寿一	一般財団法人 VISIT はちのへ 専務理事兼事務局長	出席
2	副会長	いのうえ あかし 井上 丹	八戸学院大学地域経営学部 地域経営学科 准教授	出席
3	委員	おおや ゆういちろう 大矢 雄一郎	公募	出席
4	委員	かとう ひでたか 河東 英宜	株式会社かまいしDMC 代表取締役	出席
5	委員	さいとう なおき 齋藤 直樹	青森県観光交流推進部 部長	欠席
6	委員	たかはし けいいち 高橋 啓一	株式会社博報堂 PR局 PR プラニング1 部長	出席
7	委員	はら のりこ 原 智子	八戸商工会議所中小企業相談所 経営支援2課 課長	出席
8	委員	まちだ なおこ 町田 直子	株式会社ACプロモート 代表取締役	出席
9	委員	まつはし みつゆき 松橋 満幸	八戸ホテル協議会 会長	欠席
10	委員	むらやま けいすけ 村山 慶輔	株式会社やまところ 代表取締役	出席
11	委員	よしだ まさき 吉田 正樹	東日本旅客鉄道(株)盛岡支社 八戸統括センター所長	出席
12	委員	わたなべ あつし 渡辺 厚	一般社団法人東北観光推進機構 推進本部長	出席

第6回八戸市観光振興審議会

～ 席図 ～

(50音順)

○議長(阿部会長) ○井上副会長



大矢委員○

河東委員○

高橋委員○

原委員○



○町田委員

○村山委員

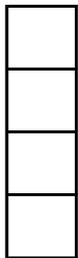
○吉田委員

○渡辺委員



○ ○ ○ ○ ○
小 古 工 下 佐
関 川 藤 村 々
G 部 次 木
L 長 長 G
L

(傍聴者他)



(報道関係)



出入口



ハマる、ハチノへ。

～ふれる旅から、ふれあう旅へ。～

「ハマる、ハチノへ。」は、知るほど、訪ねるほど、そこにある日常に溶け込むほど、どんどんディープな世界の虜になっていく八戸の時間。その奥深さにはまり、多くの方にリピーターになってもらいたいということ、さらに湊町八戸をイメージさせる「浜」と掛け合わせて「ハマる、ハチノへ。」といたしました。

副題として「～ふれる旅から、ふれあう旅へ～」としたことについては、観光地の旅は、楽しみ方が一方通行になりがちですが、八戸のそれは旅の時間に地元の人がきちんと介在し、一方的に何かにふれるだけでは得られない、交流してこそその新体験・新発見がある八戸旅を目指していくという思いが込められています。

八戸市観光振興プラン（素案）に対する各委員からの意見等について

◆井上委員

観光振興プラン（案）へのコメント

①1 第1章1（1）[P2]定住人口1人減少という表記より、旅行者が〇人増えると、定住人口1人分の消費額になる、という表記の方がわかりやすいと思います。図の→を挟んだ項目を反対にするイメージです。

⇒修正内容を検討中。

②1 第2章3（4）[P11]、（6）[P12]宿泊者数で月ごとの変化がわかる図を追加してはいかがでしょうか。

⇒修正内容を検討中。

③1 第2条3（5）[P12]年の順が逆になっています。他の表と同じように古い順からが良いと思います。

⇒修正内容を検討中。

④1 第4章3（2）①観光人材の育成[P21]に、大学との連携強化等を入れていただければありがたいです。本学は令和7年度からカリキュラムに観光学関連を追加します。

⇒修正内容を検討中。

⑤1 第4章4の三本柱[P22]は、基本方針1の施策①～③の内容と重複していますので、「特に力を入れる」という表記より、「優先的に取り組む施策」のような表記がわかりやすいと思います。追記するとしたら、「食」は関わる事業者や市民が多いことで、消費拡大だけでなく、食文化の保全拡散は基本方針2にも関連することや、基本方針3の市民の幸福度向上にもつながることが言えます。同様に種差海岸の魅力向上も環境保全の点で基本方針2に、市民の憩いの場であることから基本方針3につながることも言えるでしょう。この三本柱で具体的アクションを実行することが八戸観光のポイントであることがわかれば良いかと思います。

⇒修正済み。

⑥1 全体的に誤字脱字、文冒頭1マス開け漏れ、ですます調ミスなどありますので、ご確認ご対応お願いいたします。

⇒修正対応中。

◆大矢委員

【内容】

今後の「米国の宿泊者数」に対して影響を与える要素とアクションプランへの反映について

【理由】

八戸の観光のSWOT分析「機会」において、あるいはインバウンド対応の充実のところにおいて「三沢米軍基地が近くアメリカ人観光客が多い」ことが挙げられております。

事実、R5年度の来訪インバウンドにおいて米国は4,600名を超える実績からも、基地に絡む

VFR 宿泊が一定数見込まれることは間違いないと思われます。

一方で、三沢市内に「ルートイングランド」(260 室) の建設がスタートしており、今秋のオープンが計画されています。

原燃関係の視察需要、VFR (特にファミリー層) 需要をターゲットにしており、間接的に八戸市内の宿泊需要に影響を与えるのではないかと考えます。

私の手元の試算では、仮に年間稼働率 75%と見てその 2 割程度がこの VFR だとすると、それだけで年間 14,000 名の需要を吸収することになります。

あくまでも皮算用ですが、インバウンドの市内(圏域) 宿泊を前提にした観光消費を図る上では、やや無視できない要素とも言えます。

(これまでは三沢市内の宿泊施設が不足しており、やむなく八戸市内宿泊をしているケースも多いと伺っております)

母数全体が成長すればすべて解決しますが、今後のマーケット動向によってこの「基地があること」そのものが、機会であっても強みにはならない可能性もあると考えました。

【提案(例)】

「基地関係者を巻き込んだ取組みの実施」を「アクションプラン」への展開することにおいて
・市内宿泊施設と基地側との提携プラン策定

など、宿泊ニーズを手繰り寄せるための、一步踏み込んだ施策について触れても良いのではないかと思います。

直接、地域間競争を助長する表現は大変難しいお話かと思いますが、施設の規模感とその影響余波からの個人意見でございました。

ご勘案頂けると幸いです。

⇒修正内容について、VISIT はちのへの連携を含め要検討。

◆河東委員

一点、SWOT(P15)にこちらの記載がありますが、なにかエビデンスはありますか？

⇒VISIT はちのへ「2023 年度八戸圏域 認知浸透度調査」に基づくもの。

「認知度がある食のコンテンツは、せんべい汁のみ」

他の食の関連団体等からのクレーム等を回避するという考え方のもとでは、何かからの調査の「ブランド想起」のエビデンスから、が必要かもしれません。

もしくは、表現を「のみ」とせずに和らげるなどかもしれません。

八戸で一般的に言われていることであれば、その限りではありません！

⇒修正内容を検討中。

◆斎藤委員

⇒主に字句の修正についての意見であり、修正対応中。

◆町田委員

質問について

①P13 のアンケート調査の場所はどこでしょうか？

⇒VISIT はちのへ「はちのへエリア観光アンケート」八戸圏域 76 地点中、回答数上位 30 地点。

②P14 の来訪時の楽しみについてですが、横丁とか朝市というのは、おいしいもの、まちあるきに含まれているのでしょうか？もしくは、例えば、その他に朝市とか横丁という表記があったのか・・・等、横丁、朝市というのがどのようにとらえられているのだろうかとおもいました。→単にこれは知りたいと思っただけです。

⇒VISIT はちのへ「はちのへエリア観光アンケート」。横丁や朝市の設問は含まれていない。

全体的なところで感じたこと

①”せんべい汁”がよく出てきますが、、、八戸は海からひらけたまち、とか、食の宝庫ということで、魚介が売りにもなっているので、今後、食を売るのであれば、イベントとしての認知度のせんべい汁と食として売っていくものとの区別をつけてプロモーションをしたほうがよいと思う。→説明不十分かもしれません。委員会の日に補足します。

⇒要確認。

使うワード、言葉等について

①P17 3行目あたり、、、に、感動をよぶ体験とか、感動が心に残るとか、そのような文言があってもよいかなとおもいました。→最近、補助金申請や、観光を語る時に感動という言葉がよくでてくるように思うためです。でも、感じただけです。

⇒修正内容を検討中。

②P18 の④は、付加価値もそうですが、最近、高付加価値が求められています、まあ、どちらでもよいでしょうか？

⇒修正内容を検討中。

③P21 の(1)の方針ですが、方針の考え方として、もう少し意気込みを感じるように、観光を推進することにより地域への再投資という考え方をいれてもよいかなと思いました。観光を推進する側も再投資をして、また受ける側も幸せになる、、、という感じでしょうか？

⇒修正内容を検討中。

④P21 観光人材育成については、もう少し話し合いが必要かなと感じました。

⇒対応を要検討。

⑤P24 強みと弱みですが、アクセスは課題でもあるかもしれないのですが、みちのく潮風トレイル、三陸復興国立公園としては、決して、そんなに不便ではないと思っています。もう少し表現のしかたないかなと思いました。

⇒修正内容を検討中。

⑥同じく強みですが、大自然と人との関わり、、、とか、大自然ではぐくまれた食、、、とかにもふれてもよいかなと思います。国立公園に指定された理由の一つとして、人がかかわり守ってきたのもあると聞いています。

⇒修正内容を検討中。

⑦P24 施策の展開②の民間投資を呼び込むは、言ってしまったよいのでしょうか？以前に大手

企業がはいつてきたときに、とてつもなく大きな話で却下になっていましたので、これも少し表現、変えたほうがよいのかも、、、しれないかな、、、と思ったりはしました。

⇒修正内容を検討中。

◆村山委員

①P14 ④来訪時の楽しみのグラフは多い順にした方がわかりやすいと思います

⇒修正内容を検討中。

②P16 基本方針1、2、3で記載の目標がありますが、4年間のプランの中での中間目標なども設定するのいいと思いました。

例) 2027年までにこの中間目標、2029年までに最終目標

⇒アクションプランの中において要検討。

③施策が1～33までありますが、粒度が施策によって異なる印象を受けました。

具体的な施策もあれば、方針・方向性のようなものもあります。

たとえば、施策1：食を通じて八戸の旅の満足度を高める

施策33：リピーターや宿泊者数を増やし地域と関わりを持つ関係人口を増やす。

などは方針・方向性のように感じました。

⇒修正内容を検討中。

④P21 観光による地域経済活性化に以下の記載があります。

宿泊税の導入による観光地の財政基盤の強化や財源の確保に向けた検討を行う。

八戸はビジネス客も多いこともあり、宿泊税については賛否あると思いますが、この検討を行うことは自体はいいのではないかと考えております。

その上で、以下の表現が若干上記のメッセージと異なる印象を受けました。

施策31：観光による収益を市民サービス等へ還元するため、宿泊税の導入についての検討市民サービス等への還元がメインの印象を受けると、宿泊税の徴収の役割を一般的に担う宿泊施設の理解が得にくい可能性があるように思います。少し表現を見直してはどうでしょうか？

⇒修正内容を検討中。

⑤施策がかなり多かった印象を受けたので、「施策の中で特に力を入れる三本柱」をまとめるのはわかりやすいと感じました。

これをアクションプラン、スケジュールに落とし込む形になると思いますが、これらも今年度中にまとめていく予定でしょうか？

⇒アクションプランについては、令和7年度秋頃の策定を予定。

⑥あまり議論はできておりませんが、DXの活用についても取り組みに加えていくことも大切だと認識しております。

現在、観光庁の DX 事業の有識者委員を過去三年以上やっておりますが、地域の観光マーケティングの高度化に向け、データを活用した戦略策定、シームレスな地域サイト、CRM、DMP（データマネジメントプラットフォーム）の活用などを国が推進しております。

ビジットはちのへでも東北観光 DMP を使用していますが、データの整備、自治体・DMO での活用、民間事業者における活用など取り組む余地がまだまだあるように感じています。

計画の中では以下の施策 25 ではデータについて触れておりますが、もう少し踏み込んでもいいと思います。

施策 25:データ活用したターゲット別の取組み

たとえば、データ基盤の整備と活用の強化

- ・データ基盤の整備とは、今あるデータを整理するだけでなく、必要なデータを収集し、さらに、それを見える化・オープン化する
- ・基盤を構築し、それを自治体・DMO での活用はもちろん、地域事業者にも活用し、マーケティングや商品・サービス開発にいかしてもらう
- ・データが揃っていることで、宿泊施設新設の意思決定もしやすくなり、金融機関もデータをもって判断できる他にも色々ありますが、今後4年間のプランであることを考えるとこのあたりの要素を入れることも大切だと思います。

⇒修正内容を検討中。